

「19世紀末大不況」期における景気循環の跛行性について

宮 下 郁 男

The Different Trend of the Trade Cycles of Each National Economy during the Great Depression in the Late 19th Century

Ikuo Miyashita

- I 問題の所在
- II 1873年恐慌を中心とする景気循環
- III 1882年恐慌を中心とする景気循環
- IV 1890年恐慌を中心とする景気循環
- V 「19世紀末大不況」からの脱出
- VI むすびにかえて

I 問題の所在

イギリス資本主義は、産業資本段階には、「世界の工場」・「世界の運送業者」・「世界の商人」・「世界の銀行」等として、ほとんどの経済部門で世界経済の中心をなしていた。それは、単に世界経済の中心というだけではなく、世界経済の発展を主導する国民経済であったことをも意味する。そもそも経済は右肩上がりに、しかも直線的に発展するわけではない。それは、景気循環を伴いつつ、その構造を景気循環の中で徐々に変化させつつ、再生産されていく。それゆえ景気循環のサイクルごとにその構造が変化していくことになる。景気循環は商業および金融業の運動によって産業循環が経済全体に波及した姿である。産業資本段階のイギリス経済はその中心的な製造業として全般的には綿工業が位置し、徐々に鉄鋼業がその比重を高めていく。しかもこの二つの製造業部門は綿工業が産業循環の主導し、鉄鋼業がそれを補完するという関係にあった。この産業循環が商業・金融業をとおしてイギリス経済の景気循環を主導していたのである。

当時のイギリス経済は単なる一国民経済ではなかった。それはまず「世界の工場」として後発資本主義諸国の発展をリードしていた。後発資本主義諸国の産業資本はイギリスの産業資本との競争の中でその育成・成長を果たさなければならなかったものであり、保護関税に守られながら、成長していったのである。次に、イギリス経済の国民的な金融市場であるロンドン金融市場は同時に国際金融市場であった。すなわち、イギリス国民経済内で生ずる貸付可能貨幣資本が世界経済で利用される貸付可

能貨幣資本の多寡を基本的に規定していたのであるから、世界各国の金融市場はロンドン金融市場に単に依存するだけではなく、その蓄積を規定されていたのである。こうして、イギリス経済は、産業循環の面からも景気循環の面からも、世界経済の中心をなしていたのである。産業資本段階はこの構造が多かれ少なかれ再生産されていた。

ところが、後発資本主義諸国における産業資本の成長とともに、事情は異なってくる。後発資本主義国で産業資本が成長し、イギリスが「世界の工場」としての地位を後退させていくとともに、世界経済の産業循環の主導する力も後退していった。「19世紀末大不況」期におけるドイツ・アメリカ合衆国の産業資本の成長がそれである。他方で、ロンドン金融市場は、第一次大戦まで、国際金融市場であり続けた。ここにイギリス経済では産業循環と景気循環が跛行する可能性が存在したわけである。

「19世紀末大不況」以降第一次大戦までの各産業循環が商業・金融業の活動によって景気循環として現れる機構が明確にされねばならないが、本研究では問題が大きすぎて追及できない。とはいえ、「19世紀末大不況」における、イギリス国民経済の景気循環と、後発資本主義国の産業資本の蓄積によっても影響を受ける世界経済の景気循環の跛行性が、さしあたり、明確にされねばならない。この点を本稿の問題とする。

II 1873年恐慌を中心とする景気循環

1873年恐慌は、それ以前の資本主義的周期的恐慌がイギリスにその震源地があったのとは異なり、合衆国ないしドイツにその震源地があった。イギリスでは、好況は遅れてはじまり、アメリカ工業の急速な進歩の影響を直接受けて展開した。どこでも好況はまずはじめに鉱山・冶金業をとらえ、その後はじめに繊維工業をとらえた。

綿花消費量をみると、1860年代の景気循環は合衆国で南北戦争が闘われていたため、世界的な綿花飢饉状態に陥っており、一概に比較はできなのだが、恐慌前の最高を凌駕した年は、イギリス1860年の1,084百万重量ポンドのピークから1870年の1,207百万重量ポンド、合衆国1860年の470百万重量ポンドのピークに対して1869年の486百万重量ポンド、ドイツ1861年の73.6千トン1870年の80.9千トンと推移した¹。銑鉄生産では、イギリスでは1865年のピーク4,896千トンを1868年に5,050千トンと凌ぎ、アメリカでは1864年に記録した1030千トン1866年にはすでに1,225と凌駕し、ドイツでは1866年の1,047千トンから1867年は落ち込まずに1,114千トンと推移した²。

1 イギリスは Hoffman, *British Industry, 1700-1900*, Oxford, 1955. アメリカは Hammond, *The Cotton Industry*, 1897, p.361. ドイツはメンデリソン、『恐慌の理論と歴史』3、396頁。

2 Mulhall, *The Dictionary of Statistics*, London, 1909, p.332. Dietz, *An Economic History of England*, 1942, p.377. アメリカは Partington, *Railway Purchasing and the Business Cycle*, 1929, p.219-224. ドイツはメンデリソン、『恐慌の理論と歴史』3、396頁。

1866年恐慌の後、イギリス工業のその後の膨張は重大な困難に突き当たった。主として輸出依存度の高かったイギリス繊維工業は、外国市場の拡大をもとにして好況局面に入るのが常であった。40年代末と50年代初頭にはカリフォルニアとオーストラリアが、1858—60年には東インドがイギリスに市場を提供した。しかし、1866年恐慌の後にはイギリス綿工業が恐慌とそれに続く不況から脱出し、好況局面に突入するような新しい市場がイギリス綿工業には欠けていた。1866年恐慌後は、イギリスには、鉄鋼業の発展を促進するような新しい鉄道建設ブームもなかった。すでに同国は、1830年代の第一次鉄道建設ブーム・1840年代の第二次鉄道建設ブームによって十分に発展した鉄道網を敷設し終わっていて、それ以降は支線・枝線の建設にとどまり、鉄道建設は緩慢にしか進行しなかった。膨張した工業は追加市場を必要としていたし、巨額の貸付可能貨幣資本は新しい投下部面を求めていた。イギリス資本主義が、生産能力と資本との過剰のためにあえいでいたその時期に、合衆国とドイツが経済の急速な発展期に入った。

アメリカ工業の発展を促進するうえで決定的意義をもったのは、南北戦争中に施行されたホームステッド法による農業の発展であった。ほとんど無料で土地が手に入るというので、移民が盛んに流入し、無主地が急速に開発され、合衆国の農産物輸出が増大し、国内市場はどの資本主義国も知らなかったようなテンポで拡大することができた。

イギリスの生産の拡大をその生産指数(1913=100)で見ると、次のようである。1866年の恐慌の影響を受け、67年に37.8と底をうち、その後74年まで着実に増大し、すなわち、71年には46.1、72年には47.5、73年には49.1、74年には50.1と増大し、そして75年には49.3と低下する(表1)。同時期のドイツの生産指数(1913=100)をみると、1866年には16.0、その後着実に増大し72年にピークをむかえ22.9、73年には22.5、74年には21.5で底をつくっている³。合衆国では、南北戦争後急速に生産が増加し、生産指数(1900-19=100)で見ると66年の11から、72年の18まで着実に増大し、74年までは18で横ばい状態が続き、75年に17と底をつくっている⁴。この期間中に、イギリスでは33%、ドイツでは43%、合衆国では64%増大し、合衆国での成長が著しい。これは73年恐慌の影響をイギリス製造業が大きく受けていなかったことを意味する、と同時にイギリス製造業に根拠を置く産業循環が世界の景気循環を主導していなかったことでもある。

当時の資本主義国としての輸出構造をみると、イギリスは、1866年には輸出総額188.9百万ポンドのうち重工業製品(鉄・鋼、石炭等)が35.9百万ポンド、軽工業製品(綿製品、毛織物等)が135.6百万ポンドであり、72年には重工業製品が67.4百万ポンド、軽工業製品が159.2百万ポンドに増加し、軽工業製品中心の輸出構造である⁵。合衆国は70年に輸出総額455百万ドルのうち製造業

3 メンデリソン、『恐慌の理論と歴史』3、390頁。

4 *Statistical Abstract for the United States*, p.115,117.

5 メンデリソン、『恐慌の理論と歴史』1、346頁。

生産物 68.3 百万ドルと比重が低く、農林漁業生産物の輸出が 379 百万ドルと輸出の中心的な項目をなしている⁶。これは合衆国国内市場を自国製品で賄うのに精いっぱいであることを示している。ドイツは、1872 年に輸出総額 2318 百万マルクのうち、重工業生産物 629 百万マルク、軽工業生産物 1139 百万マルクと、イギリスと同じように繊維製品中心の輸出構造をもっている⁷。

イギリスの輸出総価額は 66 年恐慌後の底をうった 67 年の 238.9 百万ポンドから 72 年のピークの 314.6 百万ポンドに増加し、73 年の 311 百万ポンドに、その後 78 年の 245.5 百万ポンドまで継続的に減少する。輸出物価指数が与えられていないので、輸出価額を物価指数でデフレートした輸出数量で見ると、68 年に 225.8 と底をうち、72 年の 288.6 へと増加する。その後 74 年に 291.9 と増加に転じ、75 年に 293.3 とピークを迎える (表 2)。

表 3 により、輸出価額を地域別にみていくと次のようである。諸外国向けは 67 年に 172.4 百万ポンドと底を形成し、その後 72 年の 249 百万ポンドまで着実に増加し、その後 78 年の 173.5 百万ポンドまで継続的に減少する。これに対しスターリング地域内へは、底をうった 68 年の 53.4 百万ポンドから 74 年の 77.9 百万ポンドまで拡大している。これを主要輸出仕向け国・地域別にみると次のようである。ドイツへは、66 年の 25.1 百万ポンドからピークを迎える 72 年の 43.2 百万ポンドまで継続的に増大するが、73 年には 36.7 百万ポンドと減少し、さらに 77 年の 29 百万ポンドまで減少する。フランスへは 67 年に 23 百万ポンドと底を形成し、その後 70 年の 22 百万ポンドまで停滞し、71 年に 33.4 百万ポンドと急増するが、72 年の 28.3 百万ポンド、73 年の 30.2 百万ポンドと停滞し、その後 75 年の 27.3 百万ポンドまで減少する。合衆国向けでは、68 年に 23.8 百万ポンドと底をうち、72 年の 45.9 百万ポンドまで急増したが、73 年には 36.7 百万ポンドと減少し、その後 78 年の 17.5 百万ポンドまで急落する。これに対して、スターリング地域向けは傾向が異なる。オーストラリア向けでは 67 年に 10.4 百万ポンドと底をうち、69 年の 14.4 百万ポンドまで拡大するが、70 年の 10.7 百万ポンド、71 年の 11.1 百万ポンドと停滞するが、72 年の 15.5 百万ポンドから 75 年の 21.2 百万ポンドまで継続的に拡大する。東インド向けでは 67 年に 22.8 百万ポンドとピークを迎えるが、その後、68 年の 22.3 百万ポンド、69 年の 18.5 百万ポンド、70 年の 20.1 百万ポンド、71 年の 19.0 百万ポンド、72 年の 19.5 百万ポンドと停滞するが、73 年には 22.3 百万ポンドと増大し、75 年に 25.6 百万ポンドとピークを迎える。このようにみても諸外国向け輸出は景気循環に応じて変動しているが、スターリング地域向け輸出は恐慌の時期以降も増加しており、イギリス製品の市場としては 73 年恐慌の影響を受けて縮小する世界市場におけるバッファの役割を果たしていたといえる。

鉄道建設が旺盛に展開されていたロシアもまたイギリス鉄製品の重要な販売市場であった。ここで

6 メンデリソン、『恐慌の理論と歴史』1、397 頁。

7 メンデリソン、『恐慌の理論と歴史』3、382 頁。

もイギリス商品が資本輸出のあとに続いた。ジェンクスによれば、ロンドンで1866—1875年に発行されたロシアの債券は、額面価格ではほぼ1億1000万ポンドにのぼったが、実際には額面価格を下回る価格で発行された。発行価格は額面価格に対して、1866年には86%、67年には61%、69年には63%、70—71年には80—81%、72—73年には90—93%であった。とはいえ、実質利率は4ないし5%であった⁸。

この景気循環の下での好況の主要な特殊性は次のようであった。第一に、世界的な好況の主要な根源は、イギリスではなく、ドイツであり、それ以上に合衆国であった。第二に、合衆国では南北戦争後多額の外国資本の流入によって、ドイツではフランスからの数十億の賠償金の流入によって、好況が増幅された。第三にそして最後に、イギリスの好況は、合衆国とドイツの経済の急速な進歩の強い影響を受けて、またイギリス鉄鋼業の販売を拡大した資本輸出の著しい資本輸出の増大をもとにして、展開された。

こうした景気循環の特徴は世界経済におけるそれぞれの国の役割が構造的に変化したことの反映であった。さしあたり、合衆国やドイツでの産業的好況の拡大はイギリスに有利に働いた。イギリスはこれらの国で一層強い販売市場を獲得していたのである。イギリス資本はいたるところに存在した。それはアメリカ大陸における資本主義の発展を促進し、あらゆる大陸に鉄道を敷設し、イギリスの金の力、イギリスの工業の力はどこでも感じられていた。すべてのこういうことがイギリス自体における工業の好況の基礎を強めてたのである。

Ⅲ 1882年恐慌を中心とする景気循環

この循環でも、イギリスが恐慌後の不況で締め付けられている時に、いち早く合衆国が好況局面に入った。1879—89年の冬にはイギリスは、「ほとんどすべての重要な市場をとらえた激しい投機熱を経験した。それは、はじめは鉄鋼にたいする、次いで他の商品に対する合衆国の需要が突然拡大されたために、惹起されたのであった」⁹。

イギリスの生産の拡大をその生産指数（1913=100）でみると、次のようである。1873年の恐慌の影響を受けず、73年の49.1、74年の50.1まで生産を拡大し続け、その後76年までは拡大は停滞するが75年に一時51.2と回復する。しかしその後79年の46.3まで縮小し、その後は82年恐慌の影響を受けず、82年に58.3、83年には59.8まで拡大する（表1）。同じ時期のドイツの生産指数（1913=100）をみると、73年恐慌前72年に22.9とピークをむかえ、73年の22.5、75年の21.5まで生産が縮小する。しかしその後、79年の25.7まで拡大し、80年には24.6と停滞するものの、それ以降は82年恐慌の

8 L.H.Jenks, *The Migration of British Capital to 1875*, New York, London, 1927, pp.422-424

9 *Economist*, Supplement, Commercial History and Review of 1880, p.1.

影響を受けずに拡大基調が継続し、82年には28.4に達する¹⁰。合衆国では、生産の拡大を生産指数(1900-19=100)でみると、73年恐慌73年および74年の18から75—76年は17と縮小するものの、その後82年の31まで継続的に拡大する¹¹。この73年恐慌から82年までの間に、イギリスでは19%、ドイツでは26%、合衆国では72%増大し、合衆国での成長が著しく、イギリスの生産の拡大は主要国の中では最も停滞している。この景気循環も、イギリスでは製造業は恐慌後も成長しているのであり、73年恐慌を中心とする景気循環と同じようにイギリス製造業に根源を置く産業循環が景気循環を主導していなかったことの表現でもある。

この景気循環の過程で、イギリスでは82年にも貨幣恐慌の激烈な爆発はなかった。イギリスではこの好況は極めて短期的なものであり、それほど十分に緊張したものではなく、フランスのように投機的な取引所ブームを伴わなかったのである。

この時期の主要資本主義国としての輸出構造をみると、イギリスは、1882年には輸出総額241.5百万ポンドのうち重工業製品(鉄・鋼、石炭等)が66.6百万ポンド、軽工業製品(綿製品、毛織物等)が146.9百万ポンドであり61%を占める、依然として軽工業製品中心の輸出構造である¹²。合衆国は80年に輸出総額824百万ドルのうち製造業生産物103百万ドルと比重が低く、農林漁業生産物の輸出が709百万ドルと依然として輸出の中心的な項目をなしている¹³。これは未だ合衆国製造業が合衆国国内市場を自国製品で賄うのに精いっぱいであることを示している。ドイツは、1880年に輸出総額2923百万マルクのうち、重工業生産物826百万マルク、軽工業生産物1385百万マルクと、イギリスと同じように繊維製品中心の輸出構造をもっている¹⁴。

イギリスの輸出総価額は66年恐慌後の底をうった72年に314.6百万ポンドとピークをむかえ、73年には311百万ポンドに減少し、その後78年の245.5百万ポンドまで継続的に減少する。輸出価額を物価指数でデフレートした輸出数量でみると、72年に288.6とピークを迎え、73年には280.2と減少するものの、74—75年は回復し75年には293.3に達する。その後76—77年は停滞し、77年に268.4と減少するが、それ以降は82年恐慌による影響は見せず、継続して拡大し、84年には389.5に達する(表2)。

表3により、輸出価額を地域別にみると次のようである。諸外国向けは72年の249百万ポンドをピークに73年恐慌下ではすでに239.9百万ポンドと減少し、その後78年の173.5百万ポンドまで継続的に減少する。それ以降は82年恐慌の影響を受けずに83年まで継続的に拡大する。82年には

10 メンデリソン、『恐慌の理論と歴史』3、390頁。

11 *Statistical Abstract for the United States*, p.115,117.

12 メンデリソン、『恐慌の理論と歴史』1、346頁。

13 メンデリソン、『恐慌の理論と歴史』1、397頁。

14 メンデリソン、『恐慌の理論と歴史』3、382頁。

214.3 百万ポンド、83年には215 百万ポンドであった。しかし、この数字は72年のピークを越えるものではなかった。これに対して、スターリング地域向けでは75年に74年に77.9 百万ポンドとピークをむかえた後、79年の66.5 百万ポンドまで縮小するが、82年にかけて92.3 百万ポンドにまで増大する。これを主要輸出仕向け国・地域別にみると次のようである。ドイツへは、72年に43.2 百万ポンドとピークに達し、73年恐慌以降77年の29 百万ポンドまで継続的に減少していく。その後82年恐慌の影響はほとんど受けずに、82年30.5 百万ポンド、83年31.8 百万ポンドと停滞する。ドイツ向け輸出では前の景気循環のピークを越えることはなかった。フランス向けでは、73年の30.2 百万ポンド以降75年の27.3 百万ポンドまで減少するが、76年には29 百万ポンドまで回復するものの、77年には再び25.7と減少し、81年に30.1 百万ポンドとピークを迎えるが82年恐慌下で29.8 百万ポンドと減少し、73年の水準に達することはなかった。合衆国向けでは、72年に45.9 百万ポンドとピークに達し、73年にはすでに36.7 百万ポンドと大きく減退している。さらにそれ以降79年の17.5 百万ポンドまで急減する。しかしその後大きく回復し、80年には38 百万ポンドに、81年には36.8 百万ポンドと停滞するが、82年には38.7 百万ポンドに達する。合衆国向けでもやはり前景気循環のピークを越えることはできなかった。スターリング地域向けでは、全体として前景気循環のピークを越えている。オーストラリア向けでは、73年恐慌時の19.2 百万ポンドから、75年の21.2 百万ポンドまで拡大した後、76年に19.5 百万ポンドと停滞し、77—78年にはそれぞれ21.5 百万ポンドと回復するが、79—80年には再び減少して、18 百万ポンド、18.7 百万ポンドとなる。しかし、81年以降は急増して、82年には28.5 百万ポンドに達する。東インド向けでは、73年恐慌の影響を受けず、75年の25.6 百万ポンドまで拡大し、76年には26.6 百万ポンドまで低下する。77年にはひとたび26.6 百万ポンドと回復するものの、78—79年には停滞して、79年は22.7 百万ポンドという水準であった。その後は82年恐慌の影響を受けず、80年32 百万ポンド、81年31.1 百万ポンド、82年30.6 百万ポンド、83年33.4 百万ポンドと高い水準で推移している。このようにみても、イギリスの輸出は諸外国向けで減少するが、スターリング地域向けで輸出価額を伸ばし、イギリス製品の市場がスターリング地域にシフトしていったことが認められる。

この循環でも、恐慌からの回復は合衆国での回復によって、その波及効果としてイギリスも好況に入ったのであり、82年恐慌もイギリス国内に震源地をもつものでもなく、生産はいまだ拡大していた。84年になってようやく海外市場の縮小からイギリスも景気が後退していくのであった。

IV 1890年恐慌を中心とする景気循環

資本主義世界は1882年恐慌とそれに続く不況の後、1887年になってやっと次の好況に入っていった。不況からの回復が最も遅かったのがイギリスであり、最も早かったのがドイツであった。

イギリスの生産の拡大をその生産指数(1913=100)で見ると、次のようである。82年恐慌の影響

を受けずに、生産は83年の59.8まで拡大した後、86年の54.9まで縮小するが、88年には61.9と前循環のピークを越え、89年には65.9とピークを迎える。90年恐慌下では65.5、91年には65.8と停滞するがその沈み込みはまだ大きくはない(表1)。同じ時期のドイツの生産指数(1913=100)をみると、82年恐慌下の30.4から着実にかつ継続的に90年の40.3、91年の41.4まで拡大している¹⁵。合衆国では、生産の拡大を生産指数(1900-19=100)でみると、82-84年の31および85年には30と停滞するが、86年以降は着実に増大し、90年44、91年48、92年49と90年恐慌の影響を受けてはいない¹⁶。この82年から90年恐慌下までのピークからピークをとった成長の度合いは、イギリス10%、ドイツ33%、合衆国42%と、合衆国およびドイツで成長が著しく、イギリスでは経済が停滞していることが明らかである。

この恐慌はドイツで始まり、1890年3月にはその絶頂を過ぎた。この年の第二四半期には貨幣恐慌の中心は南アメリカに移った。これは、鉄道ブーム、投機的な会社の設立、国債の膨張によるものであり、イギリスの資本輸出がその背後にあった。それゆえ、イギリスにおける恐慌の勃発にきわめて大きな役割を演じた。この南アメリカへの投資の中心的存在であったマーチャントバンカー「ベアリング商会の破綻」という名でイギリスではこの恐慌を呼んでいる。

この時期の主要資本主義国としての輸出構造をみると、イギリスは、1890年には輸出総額263.5百万ポンドのうち重工業製品が91.5百万ポンド、軽工業製品が145.9百万ポンドであり55%を占める、依然として軽工業製品中心の輸出構造であるが、重工業製品の比重が増している¹⁷。合衆国は90年に輸出総額845百万ドルのうち製造業生産物151百万ドルと比重が低く、農林漁業生産物の輸出が667百万ドルと依然として輸出の中心的存在項目をなしている¹⁸。ただし、合衆国では製造業製品の比重が増加し、農林業生産物の輸出の比重が減少している。ドイツは、1890年に輸出総額3327百万マルクのうち、重工業生産物1098百万マルク、軽工業生産物1856百万マルクと、イギリスと同じように繊維製品中心の輸出構造をもっている¹⁹。

イギリスの輸出総価額の推移は次のようである。82年恐慌の年に306.7百万ポンドとピークに達するが、その後の不況で86年には268.7百万ポンドまで減少し、89年にかけて増大し315.6百万ポンドと「19世紀末大不況」以前の最高水準である72年の314.6百万ポンドを初めて超える。その後90年にかけても輸出は増大し328.2百万ポンドに達する。輸出価額を物価指数でデフレートした輸出数量でみると、84年に迎えた389.5から85年には376.9に減少させるが、86年には389.4と84年水準

15 メンデリソン、『恐慌の理論と歴史』3、391頁。

16 *Statistical Abstract for the United States*, p.115,117.

17 メンデリソン、『恐慌の理論と歴史』1、346頁

18 メンデリソン、『恐慌の理論と歴史』1、397頁。

19 メンデリソン、『恐慌の理論と歴史』3、382頁。

にはほぼ回復させ、それ以降90年の455.8というピークに向けて着実に増大させている（表2）。

表3により、輸出価額を仕向け地域別にみると次のようである。諸外国向けでは83年に215百万ポンドとピークをつくったが、85年の186百万ポンドと減少し、その後90年の233.7百万ポンドまで回復する。とはいえ、依然として72年の249百万ポンドには達してはいない。スターリング地域向けでは、82年に92.3百万ポンドとピークを形成したが、87年の82百万ポンドまで継続的に低下する。しかし、88年からは、88年91.7百万ポンド、89年90.8百万ポンド、90年94.5百万ポンドと過去のピークを越えることになった。これを主要輸出仕向け国・地域別にみると次のようである。ドイツへは83年の31.8百万ポンドというピークから86年には26.3百万ポンドまで減少し、89年に31.3百万ポンドというピークを迎えるが、恐慌年の90年には再び、30.5百万ポンドに減少し、依然として過去のピークである72年の43.2百万ポンドには達してはいない。フランス向けでは、ピークであった81年の30.1百万ポンドから86年の20.3百万ポンドまで減少し、その後90年には24.7百万ポンドまで回復するが81年の水準にすら達していない。合衆国向けでは、82年の38.7百万ポンドから85年の31.1百万ポンドまで下落するが、その後急速に拡大し、90年には過去最高を記録した72年の45.9百万ポンドを超える46.3百万ポンドに達した。

V 「19世紀末大不況」からの脱出

好況への移行はゆっくりと、不均等に中断をともないつつ行われた。最初に好況に入ったのはロシアであり、ドイツが続いた。次いで合衆国、イギリスの順であった。

イギリスの生産の拡大をその生産指数（1913=100）で見ると、次のようである。1890年の恐慌の影響を大きくうけず、88年の61.9、89年の65.9、90年の65.5、91年の65.8と高い水準で推移し、その後92年62.9、93年61.3と縮小するが、94年には65.1と回復し、95年には、67.3と恐慌以前のピークを越えている。その後は着実に増大し、96年には70.8まで増大する（表1）。同じ時期のドイツの生産指数（1913=100）をみると、90年恐慌の影響を受けず、88年に36、89年に38.6、90年に40.3、91年にピークをむかえ41.4、92年には40と後退するが、93年には42.4と以前のピークを越え、96年には52.9にまで達している²⁰。合衆国では、生産の拡大を生産指数（1900-19=100）で見ると、88年の37から90年恐慌の影響を受けず92年の49まで継続的に拡大する。その後93年には43、94年には41と縮小したものの、95年には51と、以前のピークを超えるが、96年には47と縮小している²¹。

この時期の主要資本主義国としての輸出構造をみると、イギリスは、1900年には輸出総額291.2

20 メンデルソン、『恐慌の理論と歴史』3、390頁。

21 *Statistical Abstract for the United States*, p.115.117.

百万ポンドのうち重工業製品（鉄・鋼、石炭等）が126.6百万ポンド、軽工業製品（綿製品、毛織物等）が142.8百万ポンドであり、軽工業製品中心のから重工業製品の輸出の比重も拡大してくる²²。合衆国は1900年に輸出総額1371百万ドルのうち製造業生産物434百万ドルと比重が低く、農林漁業生産物の輸出が894百万ドルと依然として輸出の中心的な項目をなしている²³。これは未だ合衆国製造業が合衆国国内市場を自国製品で賄うのに精いっぱいであることを示している。とはいえ、前述した時期に比べ製造業製品の輸出の比重がかなり高まっている点は注目に値する。ドイツは、1900年に輸出総額4611百万マルクのうち、重工業生産物1913百万マルク、軽工業生産物2052百万マルクと、イギリスと同じように軽工業製品中心のから重工業製品の輸出の比重も拡大してくる²⁴。

イギリスの輸出総価額は90年恐慌後の底をうった94年に273.8百万ポンドからそれ以降は継続的に拡大するし、1900年には354.4百万ポンドに達する。輸出価額を物価指数でデフレートした輸出数量でみると、90年恐慌年の455.8をピークとし、93年に407.5まで減少するものの、94年にはすでに回復し434.4に達する。その後95年には以前のピークを越え461となり、恐慌前年の99年に484.6とピークに達する（表2）。

表3により、輸出価額を地域別にみると次のようである。諸外国向けは90年の233.7百万ポンドをピークに、その後94年の195.2百万ポンドまで継続的に減少する。その後95年に209.8百万ポンド、96年に205.8百万ポンド、97年に207.2百万ポンド、98年に203.9百万ポンド停滞し、99年に235.3百万ポンドと前循環のピークを越え、恐慌年である1900年に「19世紀末大不況」には越えることのない1872年の252.3百万ポンドを超える。これに対して、スターリング地域向けではやはり90年の恐慌年に94.5百万ポンドとピークをむかえた後、95年の76.1百万ポンドまで縮小するが、翌96年には90.7百万ポンドにまで回復し、1900年には109.6まで増大する。地域別にみると、スターリング地域の比重が増している点に注目する必要がある。

これを主要輸出仕向け国・地域別にみると次のようである。ドイツへは、89年に31.3百万ポンドとピークに達し、90年恐慌以降93年の28百万ポンドまで継続的に減少していく。その後95年には32.7百万ポンドと拡大するが、その後98年の33.3百万ポンドまで輸出の伸びは停滞する。その後、99年の38百万ポンド、1900年の38.5と拡大する。フランス向けでは、90年恐慌年に24.7百万ポンドとピークを迎え、94年の19.8百万ポンドまで減少し、97年の19.5まで停滞する。99—1900年は拡大し、それぞれ22.3百万ポンド・25.9百万ポンドに拡大する。合衆国向けでは、90年に46.3百万ポンドとピークに達し、94年年の30.8まで継続的に減退した後、95年は一時的に44.1百万ポンドと

22 メンデリソン、『恐慌の理論と歴史』1、346頁。

23 メンデリソン、『恐慌の理論と歴史』1、397頁。

24 メンデリソン、『恐慌の理論と歴史』3、382頁。

回復するが、翌96年には32百万ポンドと急落し、97年37.9百万ポンド、98年28.5百万ポンド、99年35百万ポンド、1900年37.3百万ポンドと推移する。合衆国向けではイギリスの輸出の伸びは他の国よりも小さい。スターリング地域向けでは、この時期はその比重が減じている。オーストラリア向けでは、91年の28.3百万ポンドをピークに、93年の17百万ポンドまで縮小し、98年にかけて徐々に回復するものの23.4百万ポンドと停滞し、99年には19.8百万ポンドと急減し、1900年でも23.5百万ポンドと回復したにすぎない。東インド向けでは、90年の35.2百万ポンドをピークに、95年の25.5百万ポンドまで断続的に減少している。その後も低水準で推移し、1900年にも31百万ポンドにすぎない。

VI むすびにかえて

本稿では、イギリス国民経済の景気循環と、後発資本主義国の産業蓄積によっても影響を受ける世界経済の景気循環との跛行性を明白にすることを問題とした。そこから得られる結論は次のとおりである。

産業資本段階最後の景気循環といわれる1873年恐慌を中心とする景気循環でもすでに、イギリス経済と世界各国、とくに合衆国・ドイツという経済発展が著しい後発資本主義諸国との景気循環の跛行性が現れている。「19世紀末大不況」期はどの景気循環においても各国経済と世界経済の間に景気の跛行性があらわれ、とくにイギリスでの景気は後発資本主義国の景気循環の影響を受けて循環していた。各資本主義国で国民経済的発展がいまだ世界経済としての統一性を持って現れるということではなかった。

産業資本段階から、国外市場への依存度の高いイギリス経済にとって、国外市場の拡大は何よりも急務であったのであるが、「19世紀末大不況」期をつうじて、輸出価額の面から見れば諸外国のイギリス商品に対する市場は拡大せず、イギリス商品に対して拡大する市場を持つスターリング地域に依存してイギリス経済も拡大していった。ただ、「19世紀末大不況」からの脱出においては、スターリング地域への市場依存度は相対的にも、絶対的にも低下しており、諸外国市場の役割が拡大している。

輸出価額は「19世紀末大不況」期をつうじて拡大しなかったが、数量に関してはイギリスの輸出は拡大した。これはこの期間をつうじて物価が低落していたためであり、その原因は産業資本ないし生産に携わる資本の蓄積動向から明らかにされねばならない。これは別の研究に委ねたい。

表1 イギリスの生産指数
(1913=100)

| | 生産指数 | 建築業を含む |
|------|------|--------|
| 1866 | 38.4 | 46.1 |
| 1867 | 37.8 | 47.5 |
| 1868 | 39.9 | 49.0 |
| 1869 | 40.6 | 50.5 |
| 1870 | 43.4 | 52.0 |
| 1871 | 46.1 | 53.4 |
| 1872 | 47.5 | 54.8 |
| 1873 | 49.1 | 56.2 |
| 1874 | 50.1 | 57.5 |
| 1875 | 49.3 | 58.8 |
| 1876 | 49.9 | 60.0 |
| 1877 | 51.2 | 61.1 |
| 1878 | 48.5 | 62.0 |
| 1879 | 46.3 | 63.0 |
| 1880 | 54.2 | 64.0 |
| 1881 | 54.6 | 64.9 |
| 1882 | 58.3 | 65.9 |
| 1883 | 59.8 | 66.7 |
| 1884 | 57.9 | 67.5 |
| 1885 | 56.1 | 68.4 |
| 1886 | 54.9 | 69.2 |
| 1887 | 57.6 | 70.3 |
| 1888 | 61.9 | 71.6 |
| 1889 | 65.9 | 72.9 |
| 1890 | 65.5 | 74.2 |
| 1891 | 65.8 | 75.6 |
| 1892 | 62.9 | 77.1 |
| 1893 | 61.3 | 78.8 |
| 1894 | 65.1 | 80.6 |
| 1895 | 67.3 | 82.6 |
| 1896 | 70.8 | 84.6 |
| 1897 | 71.3 | 86.5 |
| 1898 | 73.9 | 88.5 |
| 1899 | 77.9 | 90.2 |
| 1900 | 77.1 | 91.7 |

出所

Mitchell, *British Historical Statistics*, pp.432.

表2 イギリスの輸出入数量

| | 輸出価額 | 輸入価額 | 物価指数 | 輸出数量 | 輸入数量 |
|------|-------|-------|------|-------|-------|
| 1866 | 238.9 | 295.3 | 102 | 234.2 | 289.5 |
| 1867 | 225.8 | 275.2 | 100 | 225.8 | 275.2 |
| 1868 | 227.8 | 294.7 | 99 | 230.1 | 297.7 |
| 1869 | 237.0 | 295.5 | 98 | 241.8 | 301.5 |
| 1870 | 244.1 | 303.3 | 96 | 254.3 | 315.9 |
| 1871 | 283.6 | 331.0 | 100 | 283.6 | 331.0 |
| 1872 | 314.6 | 354.7 | 109 | 288.6 | 325.4 |
| 1873 | 311.0 | 371.3 | 111 | 280.2 | 334.5 |
| 1874 | 297.7 | 370.1 | 102 | 291.9 | 362.8 |
| 1875 | 281.6 | 374.0 | 96 | 293.3 | 389.6 |
| 1876 | 256.8 | 375.2 | 95 | 270.3 | 394.9 |
| 1877 | 252.3 | 394.4 | 94 | 268.4 | 419.6 |
| 1878 | 245.5 | 368.8 | 87 | 282.2 | 423.9 |
| 1879 | 248.8 | 363.0 | 83 | 299.8 | 437.3 |
| 1880 | 286.4 | 411.2 | 88 | 325.5 | 467.3 |
| 1881 | 297.1 | 397.0 | 85 | 349.5 | 467.1 |
| 1882 | 306.7 | 413.0 | 84 | 365.1 | 491.7 |
| 1883 | 305.4 | 426.9 | 82 | 372.4 | 520.6 |
| 1884 | 296.0 | 390.0 | 76 | 389.5 | 513.2 |
| 1885 | 271.4 | 371.0 | 72 | 376.9 | 515.3 |
| 1886 | 268.7 | 349.9 | 69 | 389.4 | 507.1 |
| 1887 | 280.8 | 362.2 | 68 | 412.9 | 532.6 |
| 1888 | 298.6 | 387.6 | 70 | 426.6 | 553.7 |
| 1889 | 315.6 | 427.6 | 72 | 438.3 | 593.9 |
| 1890 | 328.2 | 420.7 | 72 | 455.8 | 584.3 |
| 1891 | 309.1 | 435.4 | 72 | 429.3 | 604.7 |
| 1892 | 291.6 | 423.8 | 68 | 428.8 | 623.2 |
| 1893 | 277.1 | 404.7 | 68 | 407.5 | 595.1 |
| 1894 | 273.8 | 408.3 | 63 | 434.6 | 648.1 |
| 1895 | 285.8 | 416.7 | 62 | 461.0 | 672.1 |
| 1896 | 296.4 | 441.9 | 61 | 485.9 | 724.4 |
| 1897 | 294.2 | 451.0 | 62 | 474.5 | 727.4 |
| 1898 | 294.0 | 470.5 | 64 | 459.4 | 735.2 |
| 1899 | 329.5 | 485.0 | 68 | 484.6 | 713.2 |
| 1900 | 354.4 | 523.1 | 75 | 472.5 | 697.5 |

出所

輸出入、*Statistical Abstract for the United Kingdom*, 各号。
物価指数 Mitchell, *British Historical Statistics*, pp.725-726.

(単位：百万ポンド)

表3 イギリスの輸出入(再輸出を含む)

| | ドイツ | | フランス | | オランダ | | 合衆国 | | アルゼンチン | | 外国計 | | オーストラリア* | | 東インド | | 南アフリカ | | 帝国計 | | 総計* | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|--------|------|-------|-------|----------|-------|------|------|-------|-----|-------|-------|-------|-------|
| | 輸出 | 輸入 | 輸出 | 輸入 | 輸出 | 輸入 | 輸出 | 輸入 | 輸出 | 輸入 | 輸出 | 輸入 | 輸出 | 輸入 | 輸出 | 輸入 | 輸出 | 輸入 | 輸出 | 輸入 | 輸出 | 輸入 |
| 1866 | 25.1 | 19.1 | 26.6 | 37.0 | 14.9 | 11.8 | 31.8 | 46.9 | 2.9 | 1.1 | 181.7 | 223.1 | 14.6 | 11.4 | 20.7 | 36.9 | 1.5 | 2.7 | 57.2 | 72.2 | 238.9 | 295.3 |
| 67 | 29.9 | 18.9 | 23.0 | 33.7 | 14.9 | 10.8 | 24.1 | 41.0 | 2.9 | 0.9 | 172.4 | 214.4 | 10.4 | 12.9 | 22.8 | 25.5 | 2.0 | 2.7 | 53.4 | 60.7 | 225.8 | 275.2 |
| 68 | 32.2 | 18.2 | 23.5 | 33.8 | 16.7 | 11.4 | 23.8 | 43.1 | 2.0 | 1.5 | 174.1 | 227.7 | 13.1 | 12.36 | 22.3 | 30.1 | 1.7 | 2.7 | 53.7 | 67.0 | 227.8 | 294.7 |
| 69 | 32.1 | 18.4 | 23.3 | 33.5 | 17.4 | 12.7 | 26.8 | 42.6 | 2.3 | 1.3 | 185.1 | 225.0 | 14.4 | 12.1 | 18.5 | 33.2 | 1.6 | 2.7 | 51.9 | 70.4 | 237.0 | 295.5 |
| 70 | 28.1 | 15.4 | 22.0 | 37.6 | 17.3 | 14.3 | 31.3 | 49.8 | 2.4 | 1.5 | 188.7 | 238.4 | 10.7 | 14.1 | 20.1 | 25.1 | 2.0 | 2.9 | 55.4 | 64.8 | 244.1 | 303.3 |
| 71 | 38.5 | 19.3 | 33.4 | 29.8 | 22.1 | 14.0 | 38.7 | 61.1 | 2.5 | 2.0 | 228.0 | 258.1 | 11.1 | 14.5 | 19.0 | 30.7 | 2.3 | 2.9 | 55.6 | 72.9 | 283.6 | 331.0 |
| 72 | 43.2 | 19.2 | 28.3 | 41.8 | 24.3 | 13.1 | 45.9 | 54.7 | 4.0 | 1.9 | 249.0 | 275.3 | 15.5 | 15.6 | 19.5 | 33.7 | 4.0 | 3.7 | 65.6 | 79.4 | 314.6 | 354.7 |
| 1873 | 36.7 | 19.9 | 30.2 | 43.4 | 24.6 | 13.3 | 36.7 | 71.5 | 3.8 | 2.6 | 239.9 | 290.3 | 19.2 | 17.3 | 22.3 | 29.9 | 4.6 | 4.1 | 71.1 | 81.0 | 311.0 | 371.3 |
| 74 | 35.1 | 19.9 | 29.4 | 46.5 | 21.3 | 14.5 | 32.2 | 73.9 | 3.2 | 1.3 | 219.7 | 287.9 | 20.7 | 18.5 | 25.4 | 31.2 | 4.7 | 4.3 | 77.9 | 82.2 | 297.7 | 370.1 |
| 75 | 34.1 | 21.8 | 27.3 | 46.7 | 20.1 | 14.8 | 25.1 | 69.5 | 2.5 | 1.4 | 205.0 | 289.5 | 21.2 | 20.6 | 25.6 | 30.1 | 5.4 | 4.5 | 76.7 | 84.4 | 281.6 | 374.0 |
| 76 | 29.7 | 21.1 | 29.0 | 45.3 | 18.7 | 16.6 | 20.2 | 75.9 | 1.6 | 1.7 | 186.6 | 290.8 | 19.5 | 22.0 | 23.7 | 30.0 | 4.7 | 4.2 | 70.1 | 84.3 | 256.8 | 375.2 |
| 77 | 29.0 | 26.3 | 25.7 | 45.8 | 16.0 | 19.9 | 19.9 | 77.8 | 2.2 | 1.7 | 176.6 | 304.9 | 21.5 | 21.7 | 26.6 | 31.2 | 4.5 | 4.3 | 75.8 | 89.6 | 252.3 | 394.4 |
| 78 | 29.2 | 23.6 | 26.6 | 41.4 | 14.7 | 21.5 | 17.5 | 89.1 | 2.4 | 1.1 | 173.5 | 290.8 | 21.5 | 20.9 | 24.7 | 27.5 | 5.5 | 4.4 | 72.0 | 77.9 | 245.5 | 368.8 |
| 79 | 29.6 | 21.6 | 26.6 | 38.5 | 15.5 | 22.0 | 25.5 | 91.8 | 2.1 | 0.8 | 182.3 | 284.0 | 18.0 | 22.0 | 22.7 | 24.7 | 6.4 | 4.6 | 66.5 | 78.9 | 248.8 | 363.0 |
| 80 | 29.1 | 24.4 | 28.0 | 42.0 | 15.7 | 25.9 | 38.0 | 107.1 | 2.5 | 0.9 | 204.9 | 318.7 | 18.7 | 25.7 | 32.0 | 30.1 | 7.2 | 5.6 | 81.5 | 92.5 | 286.4 | 411.2 |
| 81 | 29.3 | 23.7 | 30.1 | 40.0 | 15.3 | 23.0 | 36.8 | 103.2 | 3.4 | 0.6 | 210.4 | 305.5 | 24.0 | 27.0 | 31.1 | 32.6 | 7.7 | 5.4 | 86.7 | 91.5 | 297.1 | 397.0 |
| 1882 | 30.5 | 25.6 | 29.8 | 39.1 | 16.3 | 25.3 | 38.7 | 88.4 | 4.3 | 1.2 | 214.3 | 313.6 | 28.5 | 25.2 | 30.6 | 39.9 | 8.1 | 6.3 | 92.3 | 99.4 | 306.7 | 413.0 |
| 83 | 31.8 | 27.9 | 29.4 | 38.6 | 15.9 | 25.1 | 36.7 | 99.2 | 5.1 | 0.9 | 215.0 | 328.2 | 26.8 | 25.9 | 33.4 | 38.9 | 5.0 | 5.9 | 90.4 | 98.7 | 305.4 | 426.9 |
| 84 | 30.8 | 23.6 | 26.3 | 37.4 | 18.2 | 25.9 | 32.7 | 86.3 | 5.9 | 1.2 | 207.7 | 294.0 | 26.8 | 28.3 | 32.1 | 34.4 | 4.5 | 5.9 | 88.3 | 95.8 | 296.0 | 390.0 |
| 85 | 27.1 | 23.1 | 23.0 | 35.7 | 15.8 | 25.0 | 31.1 | 86.5 | 4.8 | 1.9 | 186.0 | 286.6 | 28.1 | 23.3 | 30.9 | 31.9 | 4.2 | 4.5 | 85.4 | 84.4 | 271.4 | 371.0 |
| 86 | 26.3 | 21.4 | 20.3 | 36.6 | 15.0 | 25.3 | 37.6 | 81.6 | 5.3 | 1.6 | 186.6 | 268.0 | 25.0 | 21.0 | 32.5 | 32.1 | 3.6 | 4.7 | 82.1 | 81.9 | 268.7 | 349.9 |
| 87 | 27.1 | 24.6 | 20.5 | 37.1 | 15.0 | 25.3 | 40.2 | 83.0 | 6.4 | 2.2 | 198.7 | 278.4 | 22.3 | 23.3 | 32.0 | 30.5 | 5.5 | 5.1 | 82.0 | 83.8 | 280.8 | 362.2 |
| 88 | 27.4 | 26.7 | 24.3 | 38.9 | 15.0 | 26.1 | 41.2 | 79.8 | 7.8 | 2.7 | 206.8 | 300.7 | 28.7 | 25.9 | 33.9 | 30.8 | 4.2 | 4.6 | 91.7 | 86.9 | 298.6 | 387.6 |
| 89 | 31.3 | 27.1 | 22.2 | 45.8 | 16.2 | 26.7 | 43.9 | 95.5 | 10.9 | 2.0 | 224.8 | 330.4 | 25.6 | 26.8 | 32.4 | 36.2 | 6.5 | 5.2 | 90.8 | 97.3 | 315.6 | 427.6 |
| 1890 | 30.5 | 26.1 | 24.7 | 44.8 | 16.4 | 25.9 | 46.3 | 97.3 | 8.5 | 4.1 | 233.7 | 324.5 | 25.5 | 29.4 | 35.2 | 32.7 | 9.8 | 6.1 | 94.5 | 96.2 | 328.2 | 420.7 |
| 91 | 29.9 | 27.0 | 24.3 | 44.8 | 15.0 | 27.3 | 41.1 | 104.4 | 4.4 | 3.5 | 215.8 | 336.0 | 28.3 | 31.3 | 32.5 | 32.3 | 8.6 | 6.3 | 93.3 | 99.5 | 309.1 | 435.4 |
| 92 | 29.6 | 25.7 | 21.3 | 43.5 | 15.6 | 28.8 | 41.4 | 108.2 | 5.8 | 4.5 | 210.4 | 326.0 | 21.5 | 30.5 | 29.0 | 30.5 | 8.6 | 5.5 | 81.2 | 97.8 | 291.6 | 423.8 |
| 93 | 28.0 | 26.4 | 19.8 | 43.7 | 15.7 | 28.9 | 35.7 | 91.8 | 5.7 | 4.8 | 198.6 | 312.9 | 17.0 | 29.9 | 29.9 | 26.2 | 8.6 | 5.5 | 78.6 | 91.8 | 277.1 | 404.7 |
| 94 | 29.2 | 26.9 | 19.8 | 43.5 | 13.9 | 27.6 | 30.8 | 89.6 | 4.6 | 6.2 | 195.2 | 314.4 | 18.0 | 31.9 | 30.1 | 27.6 | 9.4 | 5.0 | 78.6 | 93.9 | 273.8 | 408.3 |
| 95 | 32.7 | 27.0 | 20.3 | 47.5 | 11.3 | 28.4 | 44.1 | 86.5 | 5.5 | 9.1 | 209.8 | 321.2 | 19.3 | 33.4 | 25.5 | 26.4 | 9.0 | 5.4 | 76.1 | 95.5 | 285.8 | 416.7 |
| 96 | 34.0 | 27.6 | 20.6 | 50.1 | 12.3 | 29.3 | 32.0 | 106.3 | 6.9 | 9.0 | 205.8 | 348.6 | 24.4 | 29.4 | 30.9 | 25.2 | 11.5 | 5.3 | 90.7 | 93.2 | 296.4 | 441.9 |
| 97 | 32.0 | 26.2 | 19.5 | 53.3 | 13.3 | 29.0 | 37.9 | 113.0 | 5.0 | 5.7 | 207.2 | 357.0 | 23.7 | 29.3 | 28.0 | 24.8 | 14.9 | 5.0 | 87.0 | 94.0 | 294.2 | 451.0 |
| 98 | 33.3 | 28.5 | 20.5 | 51.4 | 13.0 | 28.5 | 28.5 | 126.1 | 5.8 | 7.8 | 203.9 | 370.9 | 23.4 | 28.9 | 30.4 | 27.5 | 14.4 | 6.2 | 90.1 | 99.6 | 294.0 | 470.5 |
| 99 | 38.0 | 30.1 | 22.3 | 53.0 | 14.0 | 30.5 | 35.0 | 120.1 | 6.5 | 10.9 | 235.3 | 378.2 | 19.8 | 23.6 | 32.0 | 27.7 | 13.1 | 6.1 | 94.2 | 106.8 | 329.5 | 485.0 |
| 1900 | 38.5 | 31.2 | 25.9 | 53.6 | 14.9 | 31.4 | 37.3 | 138.8 | 7.4 | 13.1 | 252.3 | 413.4 | 23.5 | 23.8 | 31.0 | 27.4 | 14.0 | 4.0 | 102.1 | 109.6 | 354.4 | 523.1 |

Source : Statistical Abstract for the United Kingdom, various issues.

総計で87年から88年で輸出の項目で数値が突合していない。

The problem in this paper is the elucidation of the different trend of the trade cycles between the British economy and the world economy which is affected by not only the British economy but also the industrial accumulations in the other capitalist economies that started lately.

In the trade cycle that the central point was the economic crisis in 1873 which was the last one in the industrial capital stage, the different trend of the trade cycles between British economy and world economy, especially U.S. and Germany which were industrializing rapidly, already appeared. The trade cycles of the national economies had the different trends during the great depression in the late 19th century, especially the trade cycles in Britain influenced those one in the countries that had started lately. The integrated development of each capitalist country did not exist during the great depression in the late 19th century.

Ikuo Miyashita